

154 東京法学院院友総代の祝辞

〔「法学新報」第一二四号 明治三十四年七月二十日〕

○院友総代の祝辞

明治三十四年七月十二日東京法学院第十六回卒業証書授与式ノ
挙アリ高行等院友ノ班ニ列スルヲ以テ此盛典ニ与カルノ榮ヲ得
タリ何ノ慶カ之ニ加ヘン抑モ人ノ世ニ在ル其業務ヲ同フスルヲ
以テ友タル者アリ其官職ヲ同フスルヲ以テ友タル者アリ其嗜好
ヲ同フスルヲ以テ友タル者アリ其學術ヲ同フスルヲ以テ友タル
者アリ各相裨益スル所ナキニアラス然レトモ業務ノ同シキカ為
ニ友タル者ハ其業ヲ転スルト共ニ相疎ク官職ノ同シキカ為ニ友
タル者ハ其官ヲ離ル、ト共ニ相忘レ嗜好ノ同シキカ為ニ友タル
者ハ其嗜好ノ變スルト共ニ相分ル独リ學術ノ同シキカ為ニ友タ

ル者ハ彼此業ヲ異ニシ甲乙職ヲ同フセサルニ拘ラス終始親好相
渝^{マユ}ララルコト前三者ノ比ニアラス高行等今日同一学派ヲ択ヒ同
一学校ニ入り同一学科ヲ学習セラレタル多数ノ良益友ヲ得テ俱
ニ二十世紀ノ活社会ニ提携闊歩セントスルハ欣喜ノ至リニ堪ヘ
サルヲ以テ一言ヲ陳シ諸君ノ前程ヲ祝スル所アラントス

時ノ古今ヲ問ハス洋ノ東西ヲ論セス一世ハ自ツカラ一世ノ風潮
ナルモノアリ此風潮ノ中ニ屹立シ之ニ順応シ之ヲ利導シ能ク其
為サント欲スル所ヲ成ス者は是レ之ヲ傑士ト曰フ風潮ノ簸蕩翻弄
スル所トナリ其所信ヲ貫ク能ハサル者は是レ之ヲ凡士ト曰フ活社
会ニ処スルハ猶激流ニ舟ヲ行ルカ如シ水勢ノ洶湧奔騰スルヲ顧
ミス強テ直進セントスルトキハ顛覆淪没ノ患ヲ致サ、ル者鮮シ
若夫レ激流ノ漂蕩スルニ一任シ自ラ其針路ヲ定メサルトキハ転
輾遷移底止スル所ナキニ終ランノミ故ニ善ク舟ヲ行ル者ハ水勢
ノ急激ナルトキニ遭ヘハ其船首ヲ少シク水流ニ横ヘ船体ヲ極メ
テ抵抗力少キノ地ニ置キ水勢奔騰ヲ極ムルニ至リテハ水流ニ随
ヒ静止不動船体ノ安全ヲ計リ漸ク水勢ノ緩慢ナルニ遭ヘハ船体
ヲ水流ニ横ヘ進テ其流ヲ激セシメ却テ其勢ヲ利用ス水流ノ或ハ
緩慢ニ或ハ猛激ナルハ自然ノ趨勢ニシテ我レ之ヲ奈何トモスル
コト能ハスト雖モ其緩猛ノ勢ヲ利導シ往ント欲スル所ニ往キ止
ラント欲スル所ニ止マルハ船体ノ地位船手ノ操縦如何ニ在リテ
存ス古人時務ヲ識ル者ハ俊傑ニ在リト曰フモノ亦社会潮流ノ趨
ク所ヲ視察シ之ヲ利導スルノ意ニ外ナラサル可シ

今ヤ社会到ル処法学ノ士ヲ須ツ者多シ諸君ノ前途好望海ノ如キ
モノアリ高行等請フ此ヲ以テ諸君ト提携事ニ從ハン乎聊カ蕪言

ヲ陳シテ祝詞トナス

明治三十四年七月十二日

東京法学院々友総代

伊東高行